

# 和のこころ伝承委員会

## (1) 委員会構成メンバー

委員長	三治 敦司	副委員長	金子 卓也	幹事	生田 尚己
委員	廉澤 紀彦	委員	酒田 寛幸	委員	山田 健太郎

## (2) 委員会開催報告

				開催数 21 回	出席率 72.6%
内 訳	年 月 日	場 所	出席者	内 容	
第 1 回	H22. 9. 24	サガミ日進店	6 名	委員会基本方針、委員会運営、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 2 回	H22. 10. 26	日進にぎわい交流館	5 名	委員会名称、スローガン募集、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 3 回	H22. 11. 10	サガミ日進店	8 名	委員会名称、スローガン募集、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 4 回	H22. 11. 25	サガミ日進店	4 名	委員会基本方針、3月度例会、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 5 回	H22. 12. 14	サガミ日進店	4 名	委員会基本方針、3月度例会、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 6 回	H23. 1. 25	日進にぎわい交流館	6 名	3月度例会、6月度例会、8月度例会、委員会内役割、会員拡大	
第 7 回	H23. 2. 22	日進にぎわい交流館	4 名	愛ちゅう寺子屋事業、3月度例会、6月度例会、会員拡大	
第 8 回	H23. 3. 1	日進にぎわい交流館	3 名	愛ちゅう寺子屋事業、3月度例会、6月度例会、会員拡大	
第 9 回	H23. 3. 9	(株)三晃	6 名	3月度例会、6月度例会、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 10 回	H23. 3. 29	日進にぎわい交流館	6 名	3月度例会決算、6月度例会、愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 11 回	H23. 4. 12	日進にぎわい交流館	3 名	愛ちゅう寺子屋事業、6月度例会、8月度例会、会員拡大	
第 12 回	H23. 5. 10	日進にぎわい交流館	5 名	愛ちゅう寺子屋事業、6月度例会、8月度例会、会員拡大	
第 13 回	H23. 5. 26	(株)三晃	5 名	愛ちゅう寺子屋事業、6月度例会、8月度例会、会員拡大	
第 14 回	H23. 6. 16	日進にぎわい交流館	3 名	愛ちゅう寺子屋事業、6月度例会、8月度例会、会員拡大	
第 15 回	H23. 7. 20	日進にぎわい交流館	4 名	愛ちゅう寺子屋事業、6月度例会決算、8月度例会、会員拡大	
第 16 回	H23. 7. 30	瀬戸自然児童遊園	5 名	愛ちゅう寺子屋事業、8月度例会、会員拡大	
第 17 回	H23. 8. 19	瀬戸自然児童遊園	5 名	愛ちゅう寺子屋事業、8月度例会、会員拡大	
第 18 回	H23. 9. 21	日進にぎわい交流館	3 名	愛ちゅう寺子屋事業、8月度例会、会員拡大、全国会員大会	
第 19 回	H23. 10. 11	日進にぎわい交流館	5 名	愛ちゅう寺子屋事業、会員拡大	
第 20 回	H23. 11. 8	日進にぎわい交流館	3 名	愛ちゅう寺子屋事業、8月度例会決算	
第 21 回	H23. 12. 19	居酒屋ゆき	6 名	1年間の反省	

## (3) 予算収支決算報告 (単位:円)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
事業費	650,000	650,000	3月度例会	30,000	19,484
			6月度例会	100,000	82,020
			8月度例会	400,000	421,819
			愛ちゅう寺子屋事業	120,000	103,150
			事業費剰余金		23,527
合計	650,000	650,000	合計	650,000	650,000

## (4) 事業報告

## 1. 3月度例会

日時: 2011年3月10日(木) 18:30~21:00 場所: 保田ヶ池センター2F大集会室

参加人数: JC会員36名 新入会員予定者3名 合計39名

テーマ「日本の伝統をつたえるために」

第1部 公益社団法人日本青年会議所作成『傳』<つたえ>視聴

第2部 「次世代につたえるべき事」作文

## 2. 6月度例会

日時: 2011年6月18日(土) 9:00~13:30 場所: 愛・地球博記念公園

参加人数: JC会員27名 特別会員1名 一般65名(保護者14名 子ども44名 大学生7名)

合計93名

テーマ「日本の遊び de LOVE(愛) ちゅう にゅう～」

第1部 自分で作ってあそんでみよう!

第2部 「学の夏休み」視聴

## 3. 8月度例会

日時: 2011年8月20日(土) 10:00~2011年8月21日(日) 13:30

場所: 瀬戸市自然児童遊園 ねむの森

参加人数: JC会員24名 特別会員1名 新入会員2名 一般65名(子ども45名 大学生20名)

合計92名

テーマ「～力を合わせて 遊んで 学ぼう～ サマーキャンプ in ねむの森」

## 4. 愛ちゅう寺子屋事業

## 2月度事業

日時: 2011年2月20日(日) 10:30~15:00 場所: 長久手町農村環境改善センター

参加人数: JC会員15名 大学生14名 小学生15名 特別会員1名 合計45名

## 愛ちゅう寺子屋総会

日時: 2011年4月19日(火) 19:00~20:00 場所: 日進市にぎわい交流館

参加人数: JC会員15名 大学生10名 特別会員2名 合計27名

## 4月度事業

日時: 2011年4月24日(日) 10:00~15:00 場所: 東郷町いこまい館

参加人数: JC会員15名 大学生5名 小学生24名 特別会員2名 合計46名

## 10月度事業

日時: 2011年10月15日(土) 10:00~15:00 場所: 長久手町ゴジカラ村

参加人数: JC会員12名 大学生13名 小学生19名 特別会員2名 合計46名

## 12月度事業

日時: 2011年12月4日(日) 12:30~16:00 場所: みよし市勤労青少年センター

参加人数：J C会員 11名 大学生 14名 小学生 15名 特別会員 2名 合計 42名

## 5. 会員拡大

事業を通じて地域の方々へJ C活動を理解していただくよう努め、J C活動の普及により拡大に繋げようと試みたが、結果として会員拡大はできなかった。

## 6. 第60回全国会員大会

委員会として大会を通じて積極的に参加し、卒業生の支援を含め能動的に動くことができた。副主管LOMの一員として、全国のJ Cメンバーを歓待することができた。

### (5) まとめ (結果・評価)

和のころ伝承委員会では、人と人との繋がりの中から人間関係を学ぶ場を提供することで、子ども、若者、大人の三世代が交流を図ることのできる事業を行ってまいりました。事業を通じて、人はたくさんの人との繋がりの中で生きており、他人に対する思いやりの気持ちや多くの人のおかげで生きていくことへの感謝の気持ちを子ども達につたえることができました。

3月度例会では、日本の伝統的な価値観をLOMメンバーに再確認していただき、子どもや若者に伝えるべき日本の素晴らしい伝統とは何なのかを理解していただくため、公益社団法人日本青年会議所が作成したDVD『傳』<つたえ>を視聴しました。日本古来の精神性や道徳観に再度触れていただき、自分自身の言葉でその思いを文章にさせていただくことで、他人に伝えることの難しさを感じていただけました。

6月度例会では、子ども達に遊び道具を自らの手で作り、体験してもらうことで、身近な物を使って遊ぶこと面白さに気づいてもらうことができました。テレビゲームなど一人で遊ぶことが多くなってしまった子ども達が、皆と一緒に遊び、競い合うことで最近では少なくなっていた貴重な経験をしていただくことができました。

8月度例会では生憎の雨の中、多くの一般参加者にも参加していただき、事業を行いました。一部予定していた内容をこなすことができませんでしたが、大きな事故もなく無事に事業を終えることができました。それでも子どもたちが自然の中で活動を行うことで、最近では経験することが少なくなっていた体験をしてもらうことができました。雨の中の事業が、逆に思い出に残ったという声もいただきました。

愛ちゅう寺子屋事業では、2月度事業から12月度事業まで大きな事故もなく、無事に事業を終えられました。子どもたちを相手にする事業であり、まずは安全第一を徹底したことがこの結果に繋がり、今後の愛ちゅう寺子屋事業の展開にも良い効果を生むはずです。またこの事業を通じて協力をいただいた大学生たちも1年間で大きく成長し、新しく入った大学生にも良い影響を与えることができました。

この一年を通じて非常に多くの事業を行い、そのための準備として記録に残らない部分でも数多くの会議、話し合いを重ねてきました。ボリュームのある委員会となりましたが、一人ひとりの委員会メンバーが力を尽くしたことが成功に繋がりました。全国会員大会においても委員会メンバー同士が結束して副主管LOMとしての担いをはたすことができました。会員拡大においては対外的にJ C活動を広めることにより会員拡大をめざしましたが、成果をあげることはできませんでした。

本年一年間、様々な場面でLOMメンバーの皆様のご協力をいただき、LOM以外の一般の方々にも助けられ、多くの方の力添え失くしては一年間やり遂げることは困難であったと思います。

『和のころ』をつたえていく委員会でありたいとの思いで始まった委員会でしたが、結果的には当委員会自体が最も『和のころ』を感じられたのではないかと思います。

最後にこの一年間の多くの方々からのご協力に感謝しつつ、このようなJ C活動を広げていくことが自分たちのためだけでなく、世のため人のためになるのだと痛感いたしました。一年間、ありがとうございました。